

世田谷区の住みやすさ・住みにくさの背景を探る

——公開ローデータを用いた分析として——

平原 幸輝

前せたがや自治政策研究所特別研究員／早稲田大学人間科学学術院助教

〔概要〕

近年、オープンデータの促進が自治体にも求められるようになってきている。そうした中で、公開ローデータを用いて二次分析を行うことなどは、更なる調査や施策立案の「礎」ともなりうる。本稿は、公開ローデータの二次分析の一例として、人々の定住性に関連する「住みやすさ・住みにくさ」について、統計分析を行った。その結果、世田谷区において、「地域の治安が悪い」、「買い物が不便」、「子育て環境が整備されていない」といったことについて困っていると感じている人ほど、世田谷区は「住みやすい」と感じる確率が低く、「住みにくい」と感じる確率が高くなっていることが確認された。

1. はじめに

せたがや自治政策研究所は、「政策研究」「基礎研究」「データの整備と活用」「政策提言」を4つの基本的な役割とし、自治体シンクタンクとして運営されてきた(世田谷区 2022)。2024(令和6)年度においてもこうした役割を担い続けており、そうした中で「区で実施する各種調査のデータベース化」も進められてきた。

さまざまな課題と向き合う世田谷区の各部署は、それらの課題の現状などに関するさまざまな調査を実施してきた。せたがや自治政策研究所は、そうしたさまざまな調査について、調査研究名や調査方法などを各部署に尋ね、それらの実施状況を網羅的に把握することに努めてきた。この取組みの中では、ローデータの有無やその公開の有無についても、各部署に尋ね、その状況の把握を進めてきた。

ローデータとは、変数加工などを行っていない、何も手を加えていない、「生の」調査結果を示した一覧表である。アンケート調査を行い得られた結果は、例えば、ある1行に、ある1人の回答者の各設問に対する回答を記し、次の行には他の回答者の回答をまとめていくといったような形で、回答者の回答が個票データとしてまとめられていく。こうした個票データの形式をとるローデータが、統計分析においてはデータとして主に用いられる。

近年、自治体などにオープンデータが求められている。オープンデータの促進によって、調査データの二次分析が可能となり、新たな知見が得られる可能性も広がっている。そうした中で、個人情報の秘匿などの必要最低限の処理が行われた上でのローデータの公開には、自治体にとっても、地域社会にとっても、重要な意義があると考えられる。

筆者も参加してきた、せたがや自治政策研究所の「データ活用研究会」では、上記の「区で実施する各種調査のデータベース化」について検討を行ってきた。このデータベースを用

いることによって、これまで各部署が実施してきたさまざまな調査から得られた知見を参考にすることや、公開されているローデータを統計分析することによって、更なる調査の実施や施策の展開にも繋がる可能性がある。本稿では、その一例として、公開されているローデータを用いた二次分析に取り組む。

2. 本分析の概要

東京都世田谷区は、20代や30代の転出や転入が多いことが指摘されてきており(志村 2018)、特に30代については、子育て層が勤務地に近い地域に転出することなども背景に、転入者と比較して、転出者が多くなる傾向が指摘されている(大石・田中 2024)。

こうした自治体の転出・転入に関連するワードとして、定住性というものがある。例えば、小林敦子(2006)は、市民意識調査のデータ分析を行い、「将来も引き続き当該自治体に居住したいか」という質問に示される定住性の背景には、その自治体における人々の「住みやすさ」があり、その「住みやすさ」には地域における「安全・快適」面や「健康・豊か」面での満足度が影響を与えているといった構図を示している。

この定住性の背景にあるとされる、自治体における「住みやすさ」について、人々の満足度が関連するという構図は、他の研究でも指摘されている。例えば、和川央(2021)は、町民意識調査のデータ分析を行い、「居住環境」「つながり」「安全」「子育て」への満足度が、「住みやすさ」と関連しているという指摘をしている。

これらは地域における満足度と「住みやすさ」の関連性に着目していたわけであるが、逆接的には、地域における不満と「住みにくさ」に関連性がある可能性がある。ただ、そうした「住みにくさ」に着目した分析はそれほど行われておらず、地域で感じているネガティブの感情が「住みにくさ」に直結するといった構図が存在することは明確には実証されていない。

さて、世田谷区では、区民を対象とした「世田谷区民意識調査」を毎年実施しており、この調査結果が施策の立案や実施における基盤の一つとなっている。

例えば、2024(令和6)年の「世田谷区民意識調査」は、世田谷区在住の満18歳以上の男女5,000人を対象としており、2024(令和6)年5月15日から6月5日にかけて実施された。なお、サンプルの抽出方法としては層化二段無作為抽出法、調査方法としては郵送配布・回収またはインターネットによる回答という方式が、それぞれ採用された。有効回収数は2,404人、有効回収率は48.1%となった(世田谷区 2024)。

「世田谷区民意識調査」では、世田谷区における「住みやすさ・住みにくさ」に関する設問や、「困っていること」に関する設問などが網羅されている。本稿では、この「世田谷区民意識調査」の公開されているローデータを用いた統計分析を行う。

「住みやすさ・住みにくさ」に関連して、2024(令和6)年の調査の間3では、「あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。」という質問に対して、「とても住みやすい」「やや住みやすい」「どちらともいえない」「やや

住みにくい」「とても住みにくい」という選択肢から回答を選択させている。この世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」に関する設問を主に用いて、本稿では分析を行う。

3. 本分析の結果

3.1 世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」

世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」に関する設問は以前から設けられている。この設問への回答に基づき、「とても住みやすい」「やや住みやすい」を「住みやすい」、「やや住みにくい」「とても住みにくい」を「住みにくい」として、それぞれまとめた上で、直近 10 年の調査結果を示したものが、表 1 である。なお、無回答の者は、比率の算出における分母から除外している。

表 1 世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」の推移

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
住みやすい	85.5%	84.6%	84.5%	83.1%	82.5%	84.3%	85.9%	85.3%	83.7%	86.4%
どちらともいえない	9.9%	11.6%	11.4%	12.0%	12.8%	11.4%	10.2%	10.4%	12.8%	9.3%
住みにくい	4.6%	3.8%	4.1%	5.0%	4.7%	4.3%	3.9%	4.4%	3.5%	4.3%

※「世田谷区民意識調査」(2024 年)よりデータ算出。

※無回答の者は分析から除外している。

2024(令和 6)年の調査データにおいては、「住みやすい」と回答した者は 2,058 人、「どちらでもない」と回答した者は 222 人、「住みにくい」と回答した者は 103 人であり、それぞれの割合は、「住みやすい」が 86.4%、「どちらともいえない」が 9.3%、「住みにくい」が 4.3%であった。

2023(令和 5)年から 2024(令和 6)年にかけて、「どちらともいえない」の割合が減り、「住みやすい」の割合が 83.7%から 86.4%に、「住みにくい」の割合が 3.5%から 4.3%に増えたといった変化はあるものの、「住みやすい」の割合が 85%前後、「どちらともいえない」の割合が 10%前後、「住みにくい」の割合が 5%弱といった状況が、直近 10 年、概ね続いている。

3.2 性別・年代・居住期間から見た「住みやすさ・住みにくさ」

この世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」には、人々の基本属性による違いはあるのだろうか。本稿では基本属性として、性別、年代、そして世田谷区におけるこれまでの居住期間を取り上げ、それらの基本属性別の「住みやすさ・住みにくさ」の割合をまとめたものが、表 2 である。

表2 人々の基本属性から見た世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」

		住みやすい	どちらとも いえない	住みにくい
【性別】	男性	86.0%	9.7%	4.3%
	女性	86.9%	8.9%	4.3%
【年代】	29歳以下	90.2%	6.7%	3.1%
	30代	91.0%	6.2%	2.8%
	40代	86.8%	7.7%	5.5%
	50代	85.1%	9.4%	5.5%
	60代	84.1%	12.1%	3.8%
	70代	82.9%	13.0%	4.0%
	80歳以上	88.9%	7.4%	3.7%
【居住期間】	10年未満	87.5%	7.2%	5.3%
	10年以上30年未満	86.2%	9.6%	4.1%
	30年以上	85.8%	10.3%	3.9%

※ 「世田谷区民意識調査」(2024年)データより算出。

性別について、男女間での差はそれほど大きく見られない。

年代について、例えば、年齢が上がるほど「住みやすい」と回答する割合が高まる、といった明確な傾向は確認されない。

居住期間については、居住期間が長い人ほど「住みにくい」と回答する割合は減り、「住みやすい」と回答する割合も減り、「どちらともいえない」と回答する割合が増えるといった傾向は確認されたが、各項目間での差がそれほど大きいわけではない。

3.3 人々の「困っていること」と「住みやすさ・住みにくさ」

ここまでの分析は、調査報告に修正を加えた程度であるが、ここからは更なる分析を加えていく。

「世田谷区民意識調査」の2024(令和6)年の調査では、問5として、「あなたは、普段生活している地域でどんなことにお困りですか。」という質問に対し、街づくり・暮らしに関する10つの選択肢、交通に関する4つの選択肢、環境・ごみに関する7つの選択肢、その他、特にないという選択肢から、回答を選択させている。

人々が世田谷区において感じているネガティブの感情に含まれる、日常生活で感じている「困っていること」に関するこの設問と、世田谷区における「住みやすさ・住みにくさ」には、関連があるのだろうか。両者について、クロス集計を行ったものが、表3である。

例えば、困っていることとして「地域の治安が悪い」と回答した者では64.3%、「買い物不便」と回答した者では71.0%、「交通が不便」と回答した者では74.1%、「子育て環境が整備されていない」と回答した者では76.8%が、世田谷区は「住みやすい」と回答しており、全体における割合の86.4%を大きく下回った。一方、困っていることが「特にない」者の95.2%が、世田谷区は「住みやすい」と回答し、全体における割合を上回った。

表3 世田谷区における「困っていること」と「住みやすさ・住みにくさ」の関連性

	住みやすい	どちらとも いえない	住みにくい
公園やスポーツのできる場所がない	80.5%	13.5%	6.0%
住宅が密集しすぎている	81.7%	10.8%	7.5%
放置自転車がなくて迷惑	86.2%	7.3%	6.4%
災害時の避難場所が近くにない	80.8%	11.5%	7.7%
地域の治安が悪い	64.3%	10.7%	25.0%
落書き、違法広告、風俗関係のチラシ	85.4%	10.4%	4.2%
子育て環境が整備されていない	76.8%	13.0%	10.1%
区民利用施設が使用しにくい	80.9%	13.6%	5.5%
高齢者施設が使用しにくい	81.3%	14.6%	4.2%
買い物が不便	71.0%	14.3%	14.7%
交通が不便	74.1%	15.5%	10.4%
車など交通が激しい	83.2%	11.0%	5.9%
電車の踏み切りがなかなか渡れない	87.0%	9.6%	3.4%
道路が狭くて危険	83.6%	10.2%	6.2%
騒音や振動が気になる	83.5%	10.7%	5.8%
空気の汚れがひどい	81.0%	7.1%	11.9%
空き缶・たばこなどのポイ捨て	86.3%	9.3%	4.4%
路上喫煙などのたばこマナーが悪い	82.7%	8.8%	8.4%
ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない	84.3%	8.6%	7.0%
カラスなどの鳥獣による被害	86.2%	9.6%	4.2%
犬、猫などのペット公害	83.3%	9.7%	6.9%
その他	78.1%	13.6%	8.3%
特になし	95.2%	4.5%	0.3%

※ 「世田谷区民意調査」(2024年)データより算出。

また、困っていることとして「地域の治安が悪い」と回答した者では 25.0%、「買い物が不便」と回答した者では 14.7%、「空気の汚れがひどい」と回答した者では 11.9%、「交通が不便」と回答した者では 10.4%、「子育て環境が整備されていない」と回答した者では 10.1%が、世田谷区は「住みにくい」と回答しており、全体における割合の 4.3%を大きく上回った。一方、困ったことが「特になし」者の 0.3%が、世田谷区は「住みにくい」と回答し、全体における割合を下回った。

3.4 世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」の背景に関する検討

困ったことが「特になし」者ほど、世田谷区において「住みやすい」と感じる割合が高く、「住みにくい」と感じる割合が低い。また、「困っていること」によっては「住みやすい」と感じる割合が低く、「住みにくい」と感じる割合が高まるなど、世田谷区における「困っていること」と「住みやすさ・住みにくさ」には関連性があることが示唆された。

そうした中で、この「住みやすさ・住みにくさ」の背景にある要因を検討するべく、本稿ではロジスティック回帰分析を実行した。

何かの原因によって、何かの結果にどのような影響があるのか、原因となる独立変数と、結果となる従属変数の関係性について示す回帰分析のうち、従属変数が 0 か 1 の 2 値を取る場合や、0 から 1 までの確率の値を取る場合に行われるのが、ロジスティック回帰分析である。本稿では、世田谷区に「住みやすい」と回答した者を 1、他を 0 とするダミー変数と、

「住みにくい」と回答した者を1、他を0とするダミー変数を作成し、従属変数にそれぞれ設定し、二項ロジスティック回帰分析を行った。

独立変数に関しては、以下の3つのモデルを設定した。モデル1は人々の基本属性から「住みやすさ・住みにくさ」を説明するモデル、モデル2は人々が世田谷区で困っていることから「住みやすさ・住みにくさ」を説明するモデル、モデル3は人々の基本属性と困っていることの両方から「住みやすさ・住みにくさ」を説明するモデルである。

表4 世田谷区の「住みやすさ」に関する二項ロジスティック回帰分析の結果

	モデル1		モデル2		モデル3	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)
(定数)	1.772	5.880 **	2.787	16.227 **	2.729	15.324 **
【性別】(基準：女性) 男性	-0.040	0.961			-0.074	0.928
【年代】(基準：50代) 29歳以下	0.530	1.698			0.571	1.769
30代	0.629	1.877 *			0.880	2.410 **
40代	0.159	1.173			0.359	1.432
60代	-0.094	0.910			-0.086	0.918
70代	-0.196	0.822			-0.307	0.736
80歳以上	0.331	1.392			0.245	1.277
【居住期間】(基準：10年以上30年未満) 10年未満	-0.115	0.892			-0.069	0.933
30年以上	0.024	1.024			0.008	1.008
【困っていること】(基準：特にない) 公園やスポーツのできる場所がない			-0.673	0.510 **	-0.774	0.461 **
住宅が密集しすぎている			-0.474	0.622 **	-0.487	0.614 **
放置自転車が多くて迷惑			-0.281	0.755	-0.313	0.731
災害時の避難場所が近くにない			-0.421	0.656	-0.375	0.688
地域の治安が悪い			-1.132	0.322 *	-1.264	0.283 **
落書き、違法広告、風俗関係のチラシ			-0.109	0.897	-0.052	0.949
子育て環境が整備されていない			-0.711	0.491 *	-1.015	0.362 **
区民利用施設が使用しにくい			-0.546	0.580 **	-0.541	0.582 **
高齢者施設が使用しにくい			-0.369	0.691	-0.239	0.787
買い物が不便			-1.079	0.340 **	-1.136	0.321 **
交通が不便			-0.760	0.468 **	-0.764	0.466 **
車など交通が激しい			-0.386	0.680 *	-0.475	0.622 *
電車の踏み切りがなかなか渡れない			0.020	1.020	0.001	1.001
道路が狭くて危険			-0.324	0.723 *	-0.363	0.696 *
騒音や振動が気になる			-0.306	0.736	-0.362	0.696
空気の汚れがひどい			-0.211	0.809	-0.250	0.779
空き缶・タバコなどのポイ捨て			0.091	1.095	0.133	1.142
路上喫煙などのたばこマナーが悪い			-0.449	0.638 *	-0.497	0.609 *
ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない			-0.184	0.832	-0.149	0.862
カラスなどの鳥獣による被害			-0.174	0.840	-0.134	0.875
犬、猫などのペット公害			-0.286	0.751	-0.234	0.791
その他			-0.896	0.408 **	-0.943	0.389 **
χ^2 の2乗値	16.624		127.068	**	152.299	**
Nagelkerkeの決定係数	0.013		0.097		0.117	

※ 「世田谷区民意調査」(2024年)データより算出。

※ 「**」は1%、「*」は5%水準で、それぞれ有意であることを示している。

なお、投入する独立変数間で関連性が強いと、多重共線性の問題が生じ、解釈に困難が生じる可能性がある。ただ、今回の分析の3つのモデルについては、VIF(分散拡大係数)の値が2をいずれも下回るなど、多重共線性の問題は発生していないと考えられる。

表4は世田谷区の「住みやすさ」に関するダミー変数、表5は「住みにくさ」に関するダミー変数を、それぞれ従属変数に設定した二項ロジスティック回帰分析の結果を示したものである。

表5 世田谷区の「住みにくさ」に関する二項ロジスティック回帰分析の結果

	モデル1		モデル2		モデル3	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)
(定数)	-2.937	0.053 **	-4.649	0.010 **	-4.430	0.012 **
【性別】(基準：女性) 男性	-0.014	0.986			0.086	1.089
【年代】(基準：50代) 29歳以下	-0.800	0.449			-0.955	0.385
30代	-0.967	0.380 *			-1.515	0.220 **
40代	-0.085	0.919			-0.473	0.623
60代	-0.349	0.705			-0.465	0.628
70代	-0.257	0.773			-0.026	0.975
80歳以上	-0.344	0.709			-0.211	0.810
【居住期間】(基準：10年以上30年未満) 10年未満	0.483	1.621			0.422	1.524
30年以上	0.025	1.025			-0.096	0.908
【困っていること】(基準：特にない) 公園やスポーツのできるところがない			0.725	2.064 *	0.828	2.289 *
住宅が密集しすぎている			0.800	2.225 **	0.818	2.265 **
放置自転車が多くて迷惑			0.886	2.425	0.943	2.568 *
災害時の避難場所が近くにない			0.702	2.017	0.677	1.967
地域の治安が悪い			1.961	7.104 **	2.158	8.652 **
落書き、違法広告、風俗関係のチラシ			-0.315	0.730	-0.262	0.770
子育て環境が整備されていない			1.062	2.892 *	1.456	4.289 **
区民利用施設が使用しにくい			0.513	1.670	0.518	1.679
高齢者施設が使用しにくい			-0.168	0.845	-0.280	0.756
買い物が不便			1.786	5.966 **	1.814	6.134 **
交通が不便			0.814	2.256 **	0.799	2.224 *
車など交通が激しい			0.384	1.468	0.387	1.472
電車の踏み切りがなかなか渡れない			-0.323	0.724	-0.296	0.744
道路が狭くて危険			0.571	1.771 *	0.613	1.846 *
騒音や振動が気になる			0.300	1.350	0.342	1.408
空気の汚れがひどい			0.996	2.709 *	1.094	2.987 *
空き缶・たばこなどのポイ捨て			-0.740	0.477	-0.705	0.494
路上喫煙などのたばこマナーが悪い			1.119	3.062 **	1.098	2.998 **
ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない			0.572	1.771	0.606	1.833
カラスなどの鳥獣による被害			0.120	1.128	0.138	1.148
犬、猫などのペット公害			0.480	1.617	0.444	1.559
その他			1.173	3.233 **	1.119	3.061 **
χ^2 の2乗値	9.169		124.864	**	136.105	**
Nagelkerkeの決定係数	0.013		0.174		0.193	

※ 「世田谷区民意調査」(2024年)データより算出。

※ 「**」は1%、「*」は5%水準で、それぞれ有意であることを示している。

ロジスティック回帰分析の結果に記した「B」は各変数の偏回帰係数の値を示しており、Exp(B)はオッズ比を示している。後者のオッズ比については、1より値が大きいほど各独立変数が従属変数に対して与える正の影響力が強く、1より値が小さく0に近いほど各独立変数が従属変数に対して与える負の影響力が強いと解釈される。例えば、表4のモデル1を確認すると、年代が30代である者は、基準に設定した50代と比較して、「住みやすい」と回答する確率が、0.380倍となっている。これは5%水準で有意となり、統計的にもその影響力の強さが確認されたと解釈される。

表4、表5において、従属変数を基本属性から説明したモデル1は、モデルの適合度が高くなく、人々の基本属性だけでは、世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」はあまり説明できていないと考えられる。一方、人々の困っていることから説明するモデル2、人々の基本属性と困っていることから説明するモデル3については、モデル1と比較して、適合度が一定程度高くなっており、それらから世田谷区の「住みやすさ・住みにくさ」は一定程度説明できていると言える。そのうち、モデル3が、いずれも適合度が高く、本稿ではこのモデル3を中心に上げていく。

世田谷区の「住みやすさ」に関しては、困っていることが「特にない」者と比較して、「地域の治安が悪い」と感じる者が世田谷区に「住みやすい」と感じる確率は0.283倍(3.5分の1)、「買い物が不便」と感じる者は0.321倍(3.1分の1)、「子育て環境が整備されていない」と感じる者は0.362倍(2.8分の1)となっている。他にも、「公園やスポーツのできる場所がない」、「交通が不便」、「区民利用施設が使用しにくい」といった項目が、世田谷区における「住みやすさ」に負の影響を与えており、人々が「住みやすい」と回答する確率を有意に低下させていると解釈される。

世田谷区の「住みにくさ」に関しては、困っていることが「特にない」者と比較して、「地域の治安が悪い」と感じる者が世田谷区に「住みにくい」と感じる確率は8.652倍、「買い物が不便」と感じる者は6.134倍、「子育て環境が整備されていない」と感じる者は4.289倍となっている。他にも、「路上喫煙などのたばこマナーが悪い」といった項目が、世田谷区における「住みにくさ」に影響を与えており、人々が「住みにくい」と回答する確率を有意に高めていると解釈される。

4. 知見と考察

さて、先行研究では、定住性の背景にあるとされる「住みやすさ」について、地域における人々の満足度といったポジティブな感情との関係性が指摘されてきたのに対して、地域における人々のネガティブな感情と「住みやすさ・住みにくさ」の関係性については、それほど明確には実証されてこなかった。本稿では、「世田谷区民意識調査」の公開ローデータを用いた分析を行い、世田谷区における「住みやすさ・住みにくさ」と、「困っていること」といったネガティブな感情との関係性について、検討を進めてきた。

その推移や、性別や年代による差を検討した上で、世田谷区において困っていることとの関連性を確認してきた。そして、統計分析を行った結果、世田谷区における「住みやすさ・

住みにくさ」に、人々が世田谷区において困っていることが、有意に影響を与えるケースがあることが確認されたのである。特に、「地域の治安が悪い」ことに困っているという事実は、「住みやすい」と回答する確率を最も低下させ、「住みにくい」と回答する確率を最も高めていた。また、他にも「買い物不便」なことや、「子育て環境が整備されていない」ことに困っているという事実は、「住みやすい」と回答する確率を低下させ、「住みにくい」と回答する確率を高めていることが確認されたのである。この点においては、無論あらゆる施策が重要であることに間違いはないが、特に地域社会における治安の改善、買い物環境の充実、子育て環境の整備などを進めることが、世田谷区に「住みやすい」と感じる割合を高めることに繋がり、「住みにくい」と感じる割合を低めることに繋がると考えられ、行政に限らず、さまざまな立場からそうした環境改善へのアプローチが求められていると言える。

「世田谷区民意識調査」では、人々の居住地についても尋ねている。これに基づき、世田谷区の地域別に、上記の各項目について「困っている」と感じる者の割合を算出すると、表6のようにまとめられる。

表6 地域別で見た「困っていること」

	世田谷 東部	世田谷 西部	北沢 東部	北沢 西部	玉川 北部	玉川 南部	玉川 西部	砧 北部	砧 南部	烏山
地域の治安が悪い	1.6%	1.1%	2.8%	1.0%	0.9%	0.5%	0.0%	1.3%	0.0%	2.0%
買い物が不便	6.6%	7.5%	8.9%	10.5%	8.3%	12.0%	13.4%	5.7%	26.7%	8.4%
子育て環境が整備されていない	2.2%	0.8%	3.4%	6.3%	4.8%	2.3%	2.8%	3.4%	0.9%	2.0%

※ 「世田谷区民意識調査」(2024年)データより算出。

例えば、「地域の治安が悪い」と回答する者の割合は、北沢東部が2.8%と高い。「買い物が不便」と回答する者の割合は、砧南部が26.7%と最も高く、玉川西部、玉川南部、北沢西部と続いている。「子育て環境が整備されていない」と回答する者の割合は、北沢西部が6.3%と最も高い。これらの環境改善を進める上で、こういった地域において更なる改善の余地があるかといったことが、こうした地域間比較によって示唆されうる。また、これまでの研究では、地域別の人口データを分析し、世田谷区の南西部において子育て層が多く、子育て環境の整備へのニーズが多いといった知見が得られているが(平原 2024)、こうした他の地域データと照らし合わせて、今後の施策を考えるとといった更なる展開も考えられる。

こうした更なる分析の展開以外にも、公開ローデータの二次分析によって得られた知見を生かすことは可能であろう。例えば、せたがや自治政策研究所は、2024年に「居住と地域社会に対する意識に関するWeb調査」を実施している。これは、世田谷区に転入してきた20歳以上の男女500人、世田谷区から転出した20歳以上の男女3,000人を対象とし、2024年3月6日から3月11日にかけて実施された。このうち、転出者を対象とした調査では、「あなたが世田谷区にお住まいの時に感じていた不満点をいくつかもお聞かせください。」という世田谷区における不満に関する質問があり、「家賃や住宅の価格」「物価」などの選択肢から該当するものを選択させている。「まちの安全性」「子育て支援制度の充実」「買

い物の利便性」といった、「世田谷区民意識調査」データの分析から世田谷区の「住みやすさ」「住みにくさ」に直結する「困っていること」と関連するワードも内包している中で、両者はリンクしていると考えられるが、例えば、更なる転入者調査を実施する場合などは、それらの重要性を鑑み、回答選択肢のワードを再び検討するといった展開も必要であると考えられる。また、転出者調査では、転出するきっかけを尋ねる質問もあるが、そこでは人々のライフステージに関する回答選択肢を多く用意していた。一方、本稿で示されたように、世田谷区で人々が感じている「困っていること」が、世田谷区における「住みやすさ」「住みにくさ」に対して一定程度の説明力を有していることを踏まえると、転出するきっかけに関する回答選択肢に、世田谷区で困っていたことに関する選択肢を加えるといった、設問の検討といった展開も必要であろう。

5. おわりに

せたがや自治政策研究所の「データ活用研究会」では、「区で実施する各種調査のデータベース化」について検討を行ってきたが、そこでは公開ローデータの重要性が念頭に置かれていた。公開ローデータの二次分析は、その後の施策の立案や、更なる調査の実施の「礎」となりうるものであり、本稿ではその一例として「世田谷区民意識調査」の公開ローデータを用いた統計分析を行ってきた。その結果、世田谷区における「困っていること」が、「住みやすさ」「住みにくさ」に繋がってくる構造が確認された。また、そうした知見を、他の調査に生かす方向性なども示された。

近年、オープンデータの促進が進められている中で、他の調査結果や、ローデータの二次分析は、施策の立案や、更なる調査の実施の「礎」となるという点において、その重要性が確認された。本稿も、そうした調査結果を利活用する際の、「礎」となれば幸いである。

[文献]

大石奈実・田中陽子, 2024, 「世田谷区の地域特性の析出 2023 世田谷区の人々の移動—世田谷区民はどこからきてどこへゆくのか—」 『せたがや自治政策』 16: 35-55.

小林敦子, 2006, 「行政サービスに対する『住民満足度』に関する研究」 『関東都市学会年報』 8: 80-87.

志村順一, 2018, 「世田谷の地域特性の析出」 『せたがや自治政策』 10: 95-113.

世田谷区, 2022, 「せたがや自治政策研究所の紹介」

(<https://www.city.setagaya.lg.jp/01110/6177.html>, 最終アクセス 2025 年 2 月 27 日).

世田谷区, 2024, 「世田谷区民意識調査 2024」

(<https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/18440/houkokusyo.pdf>, 最終アクセス 2025 年 2 月 27 日)

平原幸輝, 2024, 「人口構造から見た自治体の社会空間構造—東京都世田谷区の人口ピラミッドに関する分析—」 『せたがや自治政策』 16: 25-34.

和川央, 2021, 「幸福に着目した自治体施策の展望—山形県庄内町『町民アンケート』による主観的幸福感と住みやすさの実感の差—」 『日本地域政策研究』 26: 56-64.